

透析だより 平成30年2月号

シャントカルテの新しい取り組み

過去の透析だよりで取り上げてきたように、当院ではシャントエコーや STS により、シャント管理を行っています。これらはシャントの変化を経時的に観察することによって、適切な時期での治療介入を行い、シャントを長期的に使用できるようにするものです。このような今までのシャント管理に併せて、穿刺困難な患者様を中心に「シャントカルテ」の作成を始めました。

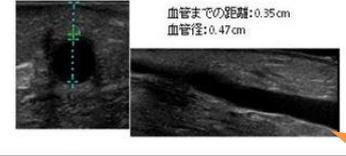
シャントカルテ	
患者氏名	
シャント部位	左肘部内シャント
透析導入日	H28.4.6
VA設置日	H28.4.6
指示流量	150ml/min
VAトラブル履歴	
H28.7.26	シャント再建術
備考	
②穿刺部より先に進むと深いので穿刺時注意して下さい	
作成日:H29.12.8	



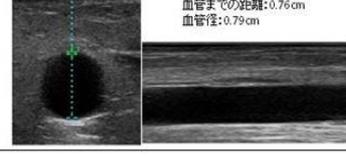
① 血管までの距離:0.24cm
血管径:0.22cm



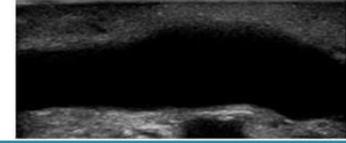
② 血管までの距離:0.35cm
血管径:0.47cm



③ 血管までの距離:0.76cm
血管径:0.79cm



④



穿刺可能な部位の血管の深さや走行を示します

深部にもぐっている部分や、狭窄部位を示します

駆血した状態の写真に血管の走行とエコー写真の部位を示します

血管エコー報告書も併用して穿刺部位やシャントの状態の情報共有を行っています

透析患者様にとって穿刺は大きなストレスになります。穿刺ミスは痛みもありますが、シャントに対してダメージを与えることにもなります。

外部からではわかりにくい血管の深さ、狭窄部位や血栓の付着、石灰化などを視覚的に表示することによって、穿刺部位の選択の補助となっています。

現在はまだ取り組み始めたばかりですが、穿刺ミスの削減や、穿刺技術の向上につながるよう活用していきます。